

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	医学総論	担当教官名	川島 和彦
対象学生	第1学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	医学総論		
授業の概要 及び到達目標	<p>現在の医療は、医師や看護師のみでなく様々な専門性が異なる医療・介護スタッフがチームを組み、質の高いサービスを提供することが求められています。そのためには、それぞれの職種ごとに医療総論が教育されてきた以前とは異なり、どの専門職に就くにも医療全体を見渡す視野が必要となり、共通の基礎学問を学ぶ必要が出てきました。医療を理解するには、先端科学のみに眼を奪われるのではなく、思想や政治経済など社会的背景も理解することが大切です。本講義では、あえて統計的な知識の羅列をさけ、こうした背景について繰り返し授業する予定です。初めて医療系の教育を受ける皆さんにも理解しやすいよう平易な講義をする予定ですが、専門職に就く自覚も同時に培っていただければと考えています。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医学の歴史～21世紀の医療 2. 災害医療 3. 健康とは何か(がん治療を中心に) 4. 死を考える(医の倫理) 5. 医療と経済:医療システムを考える 精神保健:母子保健～認知症 6. 医療安全 7. 次世代の医療 8. まとめ 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	<p>書名:現代医学概論第3版 著者名:柳澤信夫 出版社:医歯薬出版 (参考)書名:学生のための医療概論 第4版 著者名:小橋 元 他 出版社:医学書院</p>		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	定期テスト		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	皆さんは、将来「医療の専門家になる」ということを意識して取り組んでいただきたいと思います		

2025 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	嚥下障害概論	担当教官名	上羽 悟
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	嚥下障害、5期モデル、スクリーニング		
授業の概要 及び到達目標	<p>摂食嚥下障害は、言語聴覚士として関わる頻度が高い障害になります。 1年次前期では、摂食嚥下に関わる解剖・生理・機能を覚え説明できることを目標とし、授業形態としては、座学だけではなく演習を含め実施します。</p> <p>実務者経験： 介護老人保健施設にて9年、回復期リハビリテーション病院にて3年の経験。 成人・高齢者に対してのリハビリテーション業務を行っていた。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 摂食嚥下障害について 2. 摂食嚥下障害に関わる各種器官について① 3. 摂食嚥下障害に関わる各種器官について②、5期モデル・プロセスモデル 4. 「先行期」「準備期①」 5. 「準備期②」「口腔期①」 6. 「口腔期②」「咽頭期①」 7. 「咽頭期②」 8. 「食道期」 9. 口腔機能について 10. 食欲・味覚・唾液・鼻腔について 11. 摂食嚥下機能の加齢変化 12. 食事形態について 13. 評価 スクリーニングテスト① 14. 評価 スクリーニングテスト② 15. まとめ 		
準備学習	授業前後の予習・復習		
教科書・教材等	「標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学 第2版」 医学書院 藤田郁代		
授業の形式 教育機器の活用	講義・演習 (パソコン、プロジェクター、検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から 履修に当たっての留意点	摂食嚥下機能に関する「神経」「筋」は難解で、繰り返しの学習暗記が必要です。ここを十分理解することが今後の学習の基礎となるためしっかり復習してください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	音響学	担当教官名	高橋 絵留美
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	音、音声、音源フィルタ理論、音響分析		
授業の概要及び到達目標	<p>音声も音という物理現象の一種である。この講義を通じて、音という現象に関する基礎知識を学び、「ヒトが話す」という行為について物理的な側面からの視点を持つようになることを目指す。特に本講義では、言語聴覚士国家試験問題を解く上で重要となる音響学の用語について網羅し、実際の国家試験問題に取り組みながら基礎知識を身に付けることを目指す。</p> <p>[到達目標] 本講義では、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> ①音響学の基礎用語を理解し、その定義や内容について説明できる。 ②音響学の言語聴覚士国家試験問題の概要を理解し、対応できる。		
講義計画・内容	1. 音響学国家試験問題の概要 音とは 波の基本/疎密波と音圧/音波の性質/音波の波長・周期・周波数・音速/ 単振動と純音/音圧レベルと音の大きさのレベル 2. 時間波形と周波数スペクトル 純音の場合/周期的複合音の場合/非周期音の場合 3. 音響管の共鳴 一様音響管 4. 音声生成の音響理論 線形時不变システム/音源(ソース)フィルタ理論/音源の特性/ 声道の伝達特性/放射特性 5. 音声の信号処理① デジタル信号処理/AD変換とDA変換/標本化定理/スペクトル分析 6. 音声の信号処理② サウンドスペクトログラム 7. 音声の音響分析① 母音の音響特性と知覚/子音の音響特性と知覚 8. 音声の音響分析② 連続音声中の母音と子音/超分節的要素の音響特徴と知覚		
準備学習	授業前後、自身の理解度に応じて、STテキストの該当する箇所を確認すること。		
教科書・教材等	『言語聴覚士テキスト』(医歯薬出版株式会社)		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン、プロジェクター)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	講義では、特に、国家試験に出題される内容について理解ができるることを目指します。音響学に対して苦手意識を持たれている方も少なくないかと思いますが、STテキストに書かれている内容を把握することで、解くことができる問題も多くあります。何より、問題に慣れることが大切です。焦らず、諦めず、取り組んでいただければと思います。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	音声学 I	担当教官名	古田 功士
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	調音(構音)、国際音声記号、音素、アクセント		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要: 音声を記述する方法と意義について学ぶ。IPA(International phonetic alphabet: 国際音声字母)という記号を知り、実際の音声を記述する手法を学びます。また音声学に関する音韻論についても紹介します。</p> <p>到達目標: 日本語の発音(調音)について音声学的に説明できる。また音素とIPAを用いて日本語の音声を記述できる。</p> <p>【実務経験】 言語聴覚士として、15年以上、病院における成人領域の言語聴覚療法に従事。言語障害や発声発語障害のリハビリテーションにも多く関わった。また言語聴覚士養成校における音声言語関係の非常勤講師としても10年以上の経験を持つ。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音声学の位置 2. 音声学の基礎 3. IPAについて、子音の分類とIPA① 4. 子音の分類とIPA② 5. 母音の分類とIPA③ 6. 音韻論の基礎 7. 日本語の音素・音韻・IPAについて① 8. 日本語の音素・音韻・IPAについて② 9. 日本語をIPAで表記する練習① 10. 日本語をIPAで表記する練習② 11. 音の結びつきについて 12. 表音文字と音声表記について 13. 超分節的要素について 14. アクセントを表記する練習 15. まとめ 		
準備学習	授業の前後で、自身の理解度に応じて配布資料や教科書を確認すること。また習った発音について自ら発音して取り組むことも推奨される。		
教科書・教材等	教科書:『言語聴覚士テキスト第4版』、『新 ことばの科学入門』 廣瀬肇訳 医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講義・演習(パソコン、プロジェクター、検査機器など)		
成績評価の方法	科目修了試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	音声学は講義で学ぶ部分もありますが、最終的には自分のクチやノドを使った体感と一致させることができが学びの上でも、実技としての有用性においても必要だと思います。ぜひご自身で取り組んでいただくことをお勧めします。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	解剖学	担当教官名	浜田智子
対象学生	第1学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	細胞と組織、骨と筋、循環器、呼吸器系、胚葉と発生		
授業の概要及び到達目標	<p>解剖学では人体の構造を学ぶ。本講義では下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①身体の基本構造を理解する。</p> <p>②人体の各器官がどのようにできるかを理解する。</p> <p>③消化器系・呼吸器系・泌尿器系・内分泌系の構造と働きを理解する。</p> <p>実務経験：大学病院の口腔外科にて脳血管障害、循環器疾患、糖尿病などの全身疾患有した有病者の急性期観血的処置治療や入院下の全身管理下に口腔顎顔面領域の診療に従事。大学で研究の傍ら医療系の学生指導の経験を積む。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖学の学び方 細胞と組織 2. 消化器系 3. 呼吸器 4. 泌尿器 5. 内分泌系 6. 発生学 7. まとめ 8. 試験と解説 		
準備学習	授業前に指定教科書の予習を行いましょう		
教科書・教材等	シンプル解剖生理学 配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	テスト(100%)		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	受講にあたり毎回の予習・復習が大切です。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	学習認知心理学	担当教官名	武田 悠衣
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	学習心理学 知覚心理学 認知心理学		
授業の概要及び到達目標	<p>本講義では、学習心理学、認知心理学、知覚心理学の基礎を体系的に学び、人間の学習・認知・知覚のメカニズムを理解することを目的とする。学習の理論(古典的条件づけ、オペラント条件づけ、認知学習など)、記憶や注意、問題解決といった認知機能、視覚や聴覚を中心とした知覚の仕組みについて学ぶ。本講義では下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①学習心理学、認知心理学、知覚心理学の基本概念と主要な理論を説明できる。 ②それらの理論を具体的な事例に適用し、学習や認知の過程を理解できる。 ③心理学的視点を用いて、日常生活や教育・実践の場面における問題を考察できる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・学習認知心理学の概要 2. 学習心理学① 3. 学習心理学② 4. 学習心理学③ 5. 学習心理学のまとめ・小テスト・知覚心理学① 6. 知覚心理学② 7. 知覚心理学③ 8. 知覚心理学④ 9. 知覚心理学⑤ 10. 知覚心理学のまとめ・小テスト・認知心理学① 11. 認知心理学② 12. 認知心理学③ 13. 認知心理学④ 14. 認知心理学⑤ 15. 全体のまとめ(定期試験解説) 		
準備学習	各回の講義内容に関連する資料(教科書や教官が配布するレジュメ)を読み、基本的な用語や概念を把握してください。また、小テストや定期試験に向けて、講義ノートの復習と理解の確認を行うことが求められます。		
教科書・教材等	教科書:言語聴覚士のための心理学 医歯薬出版 教材 :教官が作成したレジュメを毎回配布		
授業の形式 教育機器の活用	講義(PC、プロジェクター、検査機器等)		
成績評価の方法	定期試験 80% 小テスト 20%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	学習認知心理学の知識は、国家試験にも出題される重要な領域です。また、学習・記憶・注意・知覚のメカニズムに関する理解は、教育や人材育成、自己学習の向上など、幅広い場面で役立ちます。人の学習や認知の仕組みを理解することで、効果的な学習方法を考案したり、記憶や注意を向上させたりすることが可能になります。本講義を通じて、心理学的知見を日常生活や実践に活かす力を養うことを目指します。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	形成外科学	担当教官名	山脇 吉朗
対象学生	第1学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	形成外科学・創傷治療(創傷治癒過程)・唇顎口蓋裂・鼻咽腔閉鎖機能		
授業の概要及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・形成外科が扱う主な疾患・形成外科の基本手技 の概要を学ぶ。 ・急性創傷、慢性創傷の取り扱いを学ぶことで創傷治癒過程を理解する。 ・唇顎口蓋裂をはじめとする顔面の先天異常についての詳細を学ぶ。 ・口蓋裂言語の詳細を理解する。 ・頭頸部悪性腫瘍などの再建手術について概要を理解する。 		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 形成外科総論 皮膚の解剖と生理 創傷治癒 2. 組織移植 形成外科の基本手技 軟部組織欠損の被覆(閉創)方法 植皮術 皮弁形成術(有茎組織移植術) 3. 急性創傷(顔面外傷、熱傷など) 4. 慢性創傷(褥瘡、皮膚潰瘍など) 5. 顔面の先天異常 唇顎口蓋裂、その他の顔面先天異常 6. 口蓋裂言語(1) 正常構音 口蓋裂言語(開鼻声・異常構音) 7. 口蓋裂言語(2) 診断・治療 口蓋裂とその類縁疾患 8. 頭頸部再建、瘢痕・肥厚性瘢痕・ケロイド、その他 補足事項 		
準備学習	授業前後に予習・復習をしてください。		
教科書・教材等	言語聴覚士テキスト、配布する資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン、プロジェクター)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	臨床写真・音声などを供覧しながら講義します。写真撮影や録音は厳に慎んでください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	言語学Ⅰ	担当教官名	正田久美
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	言語、音声、言語理解		
授業の概要及び到達目標	言語聴覚士の仕事に必要である「言葉」に関する理解を深める。臨床現場に役立ち、応用できる言語学の知識を身につけ、公私において自身が使う「言葉」と他の人が使う「言葉」に対し敏感になり、それらを分析する力をつける。言語学概要、言語の特性について学んだあと、言葉の音声・音韻、形態について学ぶ。また、日本語が持つ特徴やメカニズムについても理解を深める。		
講義計画・内容	第1講: 言語の特性 第2講: 言語学の対象 第3講: 言語の類型 第4講: 言語学の諸分野 第5講: 音声学・音韻論1 音声器官 第6講: 音声学・音韻論2 母音と子音 第7講: 音声学・音韻論3 音声学と音韻論 第8講: 音声学・音韻論4 音素と弁別的素性 第9講: 音声学・音韻論5 超分節素 第10講: 形態論1 語彙素と形態素 第11講: 形態論2 形態素と異形態 第12講: 形態論3 語形成 第13講: 形態論4 語彙と文法範疇 第14講: 復習 第15講: まとめ		
準備学習	授業前に教科書を必ず読む		
教科書・教材等	言語学入門 - これから始める人のための入門書 佐久間淳一、町田健 他 著		
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	定期試験 70% 小テスト30%: 小テスト3回 (試験範囲は伝えるが、試験・問題形式に関する質問は一切受け付けない。)		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	授業内におけるスマホやタブレット端末の使用を禁止する。ただし、ノートテイクのためにタブレットを使用する場合は、必ず授業前に教員に申し出ること。		

2025 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門
授業科目名	言語聴覚障害概論	担当教官名	深見 真由 他
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	言語聴覚療法、言語聴覚士、言語聴覚障害		
授業の概要及び到達目標	<p>言語聴覚士の役割・多職種との関わりについて学ぶ。</p> <p>言語聴覚士が関わる様々な障害について学び、言語聴覚療法の流れを知る。</p> <p>15回の講義の内を通して、言語聴覚士の業務、聴覚障害・成人の言語聴覚障害についての概要を学ぶ。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語聴覚障害について、言語聴覚士の役割とは(山下) 2. 言語聴覚士が関わる場面と時期(山下) 3. 「言語聴覚士の業務」、言語聴覚士法(深見) 4. 関連職種、チーム医療(深見) 5. 障害体験、コミュニケーション支援(山下) 6. 言語聴覚士が実施する評価①(野村) 7. 言語聴覚士が実施する評価②(野村) 8. 臨床における様々な障害と症状および評価と訓練について①(上羽) 9. 臨床における様々な障害と症状および評価と訓練について②(上羽) 10. 臨床における様々な障害と症状および評価と訓練について③(木村) 11. 臨床における様々な障害と症状および評価と訓練について④(上羽) 12. 臨床における様々な障害と症状および評価と訓練について⑤(深見) 13. 言語聴覚障害分野の歩み(木村) 14. 言語聴覚障害への対応(成人例) (深見) 15. 全体まとめ(上羽) 		
準備学習	予習と復習を行う		
教科書・教材等	言語聴覚障害学概論 第2版 医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講義・演習 (パソコン、プロジェクター、検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から 履修に当たっての留意点	複数の教官による講義となります。各講義がつながっている事を意識して下さい。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	言語発達学	担当教官名	竹内真理子
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	言語発達 前言語期 語彙獲得 認知発達 社会性の発達		
授業の概要 及び到達目標	<p>「ことばを遣う」ことは、私たち人間の特性のひとつである。子どもは誕生後から数年のうちに、基本的な言語能力のほとんどを獲得する。言語発達学は、この子どもたちの驚異的な言語獲得がどのようにしてなされ、そのためには何が必要で、何が欠かせないのかを理解していく学問である。本講義では、言語発達の理論的歴史から、音声・身振り・語彙・文法、さらに読み書きに至るまでの過程を習得する。定型発達の子どもたちの言語獲得の道筋を理解することは、言語獲得に障害を持つ子どもたちへの対応に欠かせないものである。</p> <p>* 実務経験: 病院、相談施設等で30年以上の経験があり、子どもの言語発達を含めた発達全般への支援・指導、構音障害に対する構音指導、親支援などに携わってきた。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 「ことば」の一つの機能、「音」について理解し、詩を音にし、楽しんでみる。 2. 言語獲得理論の動き 3. 音声の獲得 4. 身振りとことば 5. 語彙の獲得 6. 文法の獲得1 動詞を中心 7. 文法の獲得2 助詞を中心 8. 育児放棄事例のことばの発達 9. 障害児のことばの発達 ピアジェの認知発達理論 10. 障害児のことばの発達 11. 障害児のことばの発達 12. 障害児のことばの発達 13. 談話(ディスコース)構造の発達 14. 読み・書きの発達 15. まとめ 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと(教科書を読む)。		
教科書・教材等	「新・子どもたちの言語獲得」大修館書店、「特別なニーズを持つ子どもを理解する」岩崎学術出版社		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン、プロジェクター、検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	言語を含めた発達に障害を持つ子どもは勿論、成人の言語リハにおいても、子どもの言語発達過程を正しく理解していることは必須です。毎回の授業をしっかり聴いて、理解を含めてください。「言語」「ことば(音声言語)」に興味を持ってください。身近な子どもたちの様子を興味を持って見てみてください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	言語発達障害概論	担当教官名	深見真由
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	標準的言語発達 言語発達障害 学習障害 特異的言語発達障害		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 ①言語発達障害の理解の前提となる標準的発達と発達の基盤、 ②種々の言語発達障害の特性(国際的診断基準・疾病分類を参照)、 ③それぞれの言語発達障害に適した評価と指導・支援体制の方向性</p> <p>到達目標 上記の①②③について基礎的知識を得る</p>		
講義計画・内容	1. 標準的言語発達・言語発達の基盤① 2. 標準的言語発達・言語発達の基盤② 3. 評価・検査 4. 知的発達症(知的能力障害) 5. 特異的言語発達障害・限局性学習症(限局性学習障害) 6. 注意欠如多動症/自閉スペクトラム症 7. 脳性麻痺・重複障害 8. まとめ		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第2版 シリーズ監修 藤田郁代 編集 玉井ふみ／深浦順一 医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講義 (パソコン, プロジェクター)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から 履修に当たっての留意点	日常生活において、幼児の行動・遊び・ことばに注意を向けるように心がけてください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	呼吸・発声・発語系の構造・機能・病態	担当教官名	末廣 篤
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	発声、構音、呼吸、基礎講義		
授業の概要及び到達目標	<p>下記の内容につき、系統的な講義をおこなう。①医学に関しての総論講義②発声器官に関する各論講義③構音器官に関する各論講義④呼吸器に関する各論講義</p> <p>実務者経験: 2016年より京都大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科、さらに2019年より同大学リハビリテーション科を兼任。音声、嚥下、栄養学、頭頸部癌の治療などを専門とする。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医学概論 2. 耳鼻咽喉科概論 3. 言語障害 4. 喉頭の解剖 5. 喉頭の機能 6. 喉頭の検査 7. 喉頭の病態 1 8. 喉頭の病態 2 9. 構音器官の解剖 10. 構音運動 11. 構音器官の病態 12. 呼吸器の解剖 13. 呼吸機能検査 14. 呼吸器の病態 15. 授業のまとめ 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	クリア言語聴覚療法 8音声障害（建帛社）2025年2月刊行予定 ※授業ではほとんど使用しません。		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン、プロジェクター、検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験のみで判定(合格点は60%以上)		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	言語聴覚領域は非常に範囲が広く、かつ複雑です。神経科学や呼吸器科学、耳鼻咽喉科学などの総論講義で基礎を固めてから、発声・発語に関連する各論講義を行います。特に復習をしっかり行ってください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門
授業科目名	失語症 I	担当教官名	木村奈緒
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	失語症 失語症の症状 失語症候群		
授業の概要及び到達目標	<p>概要: 言語聴覚士にとって、失語症は接する機会の多い障害である。評価・訓練はもちろん、失語症者や周囲の人達への働きかけなども求められる。また、急性期から維持期まで全ての時期にわたっての介入が必要となる。失語症学 I では、失語症の定義に始まり、神経基盤や症状、失語症候群について説明する。</p> <p>実務者経験: 一般病院で28年間、急性期から生活期にわたって失語症・高次脳機能障害・嚥下障害・構音障害に対するリハビリテーションに携わった。</p> <p>到達目標: ①失語症の定義や言語野の概要を説明できる。 ②失語症の症状や失語症候群について、基礎的な知識を身につける。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 失語症とは(概論) 2. 失語症の定義・原因疾患 3. 失語症の症状① 4. 失語症の症状② 5. 失語症の症状③ 6. 失語症の症状④ 7. 小テスト① 言語と脳 8. 失語症候群① 9. 失語症候群② 10. 失語症候群③ 11. 失語症候群④ 12. 小テスト② その他の失語症 13. 純粋型・原発性進行性失語 14. 関連障害との鑑別 15. 全体まとめ 		
準備学習	授業前後の予習・復習。授業の最後に復習シートを配布し提出、次回で返却。成績には加味しませんが自身の復習に役立てて下さい。		
教科書・教材等	標準言語聴覚障害学 失語症学(第3版) 医学書院 監修 藤田郁代		
授業の形式 教育機器の活用	講義・演習(パソコン、プロジェクター、検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から 履修に当たっての留意点	基礎的な内容ではありますが、1年生後期の失語症学 II、2年生前期の III につながっていく内容です。実習にはもちろん、STとして従事してからも必要な知識ですので、十分に理解することが重要です。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	小児科学	担当教官名	森本昌史
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	成長 発達 小児保健 小児の病態と疾病		
授業の概要及び到達目標	小児の特徴である成長、発達について解説し、特徴がある小児保健、更には小児の病態・疾病について系統的に理解できるように講義を進める。特に言語聴覚領域において重要な分野については重点をおいて解説する。到達目標①成長・発達について理解し、説明できる。②小児保健(乳幼児健診、予防接種、学校保健など)について理解し、説明できる。③小児の病態・疾病について系統的に理解し説明できる。		
講義計画・内容	1. 小児の発達・成長 2. 小児保健 3. 遺伝疾患 4. 神経・筋疾患 5. 新生児疾患 6. 循環器疾患 7. 呼吸器疾患 8. 免疫、アレルギー疾患・膠原病 9. 内分泌、代謝疾患 10. 感染症 11. 血液疾患・悪性腫瘍 12. 消化器疾患 13. 腎・泌尿器疾患 14. 発達障害・事故 15. 小児科学のまとめ		
準備学習	授業前には教科書の該当箇所を読んでおく。授業後は資料、小テストについて復習しておく。		
教科書・教材等	言語聴覚士のための基礎知識 小児科学・発達障害学 第2版 医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン、プロジェクターなど)		
成績評価の方法	定期試験 80 %、小テスト(講義中に適宜、実施) 20 % それらの総和で60%以上を合格基準とする。		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	言語聴覚領域に関する分野に重点を置きながら、小児科学全般にわたって講義します。小児の言語聴覚の評価の役立つ小児科学の基礎知識が習得できるように積極的取り組んでください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	心理測定法	担当教官名	陳 晓雪
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	心理物理学的測定法、テスト理論、尺度構成法、調査法、データ解析法		
授業の概要及び到達目標	<p>本講義では、言語聴覚士にとって必要な心理測定法について学びます。具体的には、基本的な理論や実施方法、測定値の解釈方法などを学び、診断や治療計画に役立てることを目的とします。</p> <p>① 心理物理学的測定法、テスト理論、尺度構成法の各概念が理解できる。 ② 各種調査法の概要と違いが理解できる。 ③ 心理統計学における相関分析、回帰分析、分散分析などの基礎概念が理解できる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学測定法の授業ガイダンスと講義概要 2. 心理物理学的測定法 3. テスト理論 4. 妥当性と信頼性 5. 尺度構成法 6. 調査法 7. 変数と要約統計量 8. 統計的仮説検定 9. 相関係数とクロス表 10. t検定 11. 分散分析(1) 12. 分散分析(2) 13. 回帰分析 14. 因子分析 15. まとめ 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	配布資料を使用します。		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン、プロジェクター、検査機器など)		
成績評価の方法	小テスト40% + 期末テスト60%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	心理学の知識はどのように生まれるのを理解するには、心理学測定法は重要な一環です。心理学統計法と測定法の内容は、言語聴覚士の実践には欠かせません。日常生活の例を思いながら学んでいきましょう。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	神経系の構造・機能・病態	担当教官名	木下彩栄 他
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	神経解剖、中枢神経、末梢神経、筋、機能局在、神経疾患		
授業の概要及び到達目標	<p>言語聴覚士として必要な神経系の構造・機能・病態について学ぶ。脳神経が障害されたときの症状を理解し、診断や治療につなげるためには、正確な神経解剖の知識が必要である。本講義では大脑から末梢神経、筋にいたる構造や機能を学ぶことで、病態を理解できるように教授する。また、神経系の疾患を診断するための検査技法についても教授し、言語聴覚士が遭遇する神経系の疾患の概要について修得する。本授業で神経解剖を学ぶことで、後期の履修科目の臨床神経学の理解につなげていく。</p>		
講義計画・内容	<p>①総論、大脑・脳血管の肉眼解剖（木下） ②神経生理学（松橋） ③末梢神経系の解剖（松橋） ④大脑の機能と局在診断（木下） ⑤脳幹・小脳の機能と局在診断（木下） ⑥自律神経系・筋の解剖（松橋） ⑦電気生理学的検査法（松橋） ⑧脊髄の機能と局在診断（木下） ⑨神経学的診察法（木下） ⑩脳神経系の疾患(1)脳血管障害（木下） ⑪中枢神経系の画像診断（石津） ⑫脳神経系の疾患(2)認知症（木下） ⑬脳神経系の疾患(3)神経変性疾患（木下） ⑭中枢神経・末梢神経系のまとめ（木下） ⑮まとめとテスト解説（木下）</p>		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	病気が見えるvol 7 脳・神経		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン、プロジェクター、検査機器など)		
成績評価の方法	定期テストで評価する		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	記憶することが多いので、整理して覚えること。後期の臨床神経学の理解のためにも、前期に神経解剖をしっかりと習得するように心がけること。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	生理学	担当教官名	高橋 絵留美
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	からだの構造(かたち)と機能(はたらき)、細胞・組織・器官、各器官系のはたらき		
授業の概要及び到達目標	<p>[授業の概要] 生理学は、からだの機能(はたらき)について学ぶ学問であり、言語聴覚士が携わる領域(言語聴覚、発声構音、摂食嚥下など)を理解する上で、基盤となる。本講義では、適宜、解剖学(からだの構造)についても触れながら、生理学の基礎的な内容について学ぶ。また、授業内容と関連させながら、解剖生理学分野の国家試験問題についても取り扱う。</p> <p>[到達目標] 本講義では、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①からだの機能を細胞レベルで理解し、器官系ごとのはたらきについて説明できる。 ②生理学の知識と言語聴覚士の専門領域との関連について理解し、説明できる。 ③解剖生理学の言語聴覚士国家試験問題の概要を理解し、対応できる。 		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. からだの構造と機能の概論、細胞 2. 遺伝とゲノム 3. 組織、骨 4. 体液と血液、免疫系 5. 筋 6. 神経系① 7. 神経系② 8. 神経系③ 9. 神経系④ 10. 神経系⑤ 11. 神経系⑥ 12. 循環系 13. 代謝・栄養・体温 14. 1~13回の振り返り 15. 試験解説 <p>※項目は教科書の章に沿っていますが、学習順序は学習内容により変更しています。 ※上記は、状況により、変更となる場合があります。 ※感覚系の項目は神経系①～⑥の中で取り扱います。</p>		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	『シンプル解剖生理学』(南江堂)、その他図解を中心に複数の教材から適宜引用・配布します。神経系の項目では『病気がみえる vol.7 脳・神経』(メディックメディア)も使用します。		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン、プロジェクター)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	本講義で取り扱う内容は、他の専門的・臨床的科目の基礎となりますので、授業には積極的に取り組んで下さい。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	精神医学	担当教官名	船曳康子
対象学生	第1学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	メンタルヘルス、心の健康、精神疾患		
授業の概要及び到達目標	<p>各発達段階の心理的課題や精神の病について学習することで、精神の病の予防やそこからの回復について必要となる知識と見識を養うことを目的とする。</p> <p>こころの健康に関する個人的・社会的両面のさまざまな問題にとりくむための基本的能力を獲得する。</p> <p>実務者経験:平成8-9年京都大学医学部附属病院、平成9-11年京都市立病院にて一般臨床を行った。海外経験後、平成17年より京都大学医学部附属病院精神科神経科の外来を担当し、平成21年より同助教として一般精神科医療に加え児童青年期・発達障害を専門とする。平成27年より京都大学大学院人間・環境学研究科の教員として授業を行いながら、地域での実務を継続している。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神医学総論とライフステージごとの特徴 2. 発達とその障害 3. 児童青年期の精神障害と人格形成 4. 神経症など 5. 気分障害 6. 統合失調症 7. 認知症とその他の精神障害 8. まとめ 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	標準精神医学／医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	<p>講義 パソコン、プロジェクター</p>		
成績評価の方法	定期試験(100%)		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	精神医学を学ぶことによって、自身の健康維持、また周囲への配慮や支援を身につけてください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門
授業科目名	聴覚障害概論	担当教官名	岸田隆之
対象学生	第1学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	発達 構造・機能 疾患 聴覚リハビリテーション(成人・小児) 制度		
授業の概要及び到達目標	<p>聴覚障害とそれに対する(リ)ハビリテーションの全体像をつかむことで、各論の講義に臨むことが必要である。本講義では以下の内容を目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害の全体像をイメージできる ・聴覚器官の構造と機能がわかることで、疾患の把握や聴覚障害の基本的な評価ができる ・評価から(リ)ハビリテーションの大枠を作れる ・聴覚補償機器の基本的知識を持つ <p>実務者経験：1985年～2000年大阪府立身体障害者福祉センター附属病院耳鼻咽喉科にて臨床検査、補聴器適合等 2017年～ 神戸市障害者更生相談所補装具適合判定</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 聴覚の機能、聴覚の発達 2. 聴覚障害とは、聴覚障害児・者の実態、難聴の分類、 3. 難聴児・者のきこえ、難聴児・者とのコミュニケーション、各ライフステージにおける聴覚障害の影響 4. 聴覚器官の構造・機能 5. 聴覚器官の構造・機能 6. 聴覚障害の評価(成人・小児) 7. 聴覚障害の評価(成人・小児) 8. 聴覚障害をもたらす疾患 9. 聴覚障害をもたらす疾患 10. 聴覚(リ)ハビリテーション(流れ、ライフステージ、方法) 成人難聴の聴覚リハビリテーション 11. 小児難聴の聴覚リハビリテーション 12. 聴覚補償機器(補聴器) 13. 聴覚補償機器(人工聴覚器、その他) 14. 制度、まとめ 15. テスト解説 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学(第3版) 医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講義 プロジェクター、CDラジカセ(パソコンは持参)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	できるだけ聴覚障害の全体像が理解できるようにいたしますが、この講義をもとに各論で知識を深めていただければと思います。質問は隨時受け付けます。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	内科学	担当教官名	浜田智子
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	内科学 病態生理 疾患 診断・治療		
授業の概要及び到達目標	<p>人体の構造・機能を理解したうえで、内科疾患の病態生理を理解する。さらに重要疾患の診断・治療も理解する。</p> <p>実務経験：大学病院の口腔外科にて脳血管障害、循環器疾患、糖尿病などの全身疾患有した有病者の急性期観血的処置治療や入院下の全身管理下に口腔顎顔面領域の診療に従事。大学で研究の傍ら医療系の学生指導の経験を積む。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内科学総論 2. 呼吸器疾患 3. 循環器疾患(1) 4. 循環器疾患(2) 5. 消化器疾患 6. 肝・胆・膵疾患 7. 血液・造血器疾患 8. 腎疾患・水電解質異常 9. 代謝性疾患 10. 内分泌疾患 11. 自己免疫疾患(膠原病) 12. 神経・筋疾患 13. 感染症 14. 中毒疾患・その他 15. まとめ 		
準備学習	授業前に教科書の予習を行うこと。		
教科書・教材等	指定教科書：中外医学社『内科学』、及び配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	テスト(100%)		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	受講にあたり毎回の予習・復習が大切です。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	病理学	担当教官名	杉山 文枝
対象学生	第1学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	病期のなりたち、炎症、感染症、腫瘍		
授業の概要 及び到達目標	<p>【到達目標】</p> <p>①炎症にはどんなものがあるか ②感染症の成因 ③悪性腫瘍と良性腫瘍の違いが分かるように</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病因 2. 炎症 3. 免疫アレルギー 4. 感染症 5. 腫瘍 6. 先天異常 7. 循環障害 8. まとめ 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	わかりやすい病理学 第7版 岩田隆子 南江堂		
授業の形式 教育機器の活用	講義(教科書、プリントなど)		
成績評価の方法	試験100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	疑問点はすぐに質問してください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	臨床心理学 I	担当教官名	古澤 文子
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	臨床心理学基礎理論 心理アセスメント 心理療法		
授業の概要及び到達目標	<p>臨床心理学とは、心理療法の基礎理論であり、様々なこころの問題を抱えたひとと向き合い理解するという、対人援助における実践のための学問です。本講義では、理論と実践が不可分な臨床心理学について、下記に示す内容を到達目標として講義を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①臨床心理学の基礎理論(発達、人格)について説明できる。 ②心理アセスメントの方法を理解し、それぞれの長所・短所を説明できる。 ③心理療法の基本的姿勢について、それぞれの立場の違いを説明できる。 ④様々なこころの病いの症状とその解釈について、簡潔に説明できる。 		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 臨床の知とは何か 2. こころの発達① 乳児期、幼児期 3. こころの発達② 児童期、思春期、青年期 4. こころの発達③ 成人期、壮年期、老年期 5. こころの発達④ 発達障がい／パーソナリティ理論 6. 心理アセスメント① 質問紙法、作業検査法 7. 心理アセスメント② 知能検査、発達検査、神経心理学的検査 8. 心理アセスメント③ 投影法、描画法 9. 心理療法① こころがまえ 10. 心理療法② 非言語 11. 心理療法③ 精神力動理論、認知行動理論 12. 心理療法④ 人間性アプローチ、日本の心理療法 13. こころの病い① 病いの分類と認知症、統合失調症、気分障害、不安症群 14. こころの病い② 強迫症、心的外傷、解離症群、身体症状症、摂食障害群、睡眠-覚醒障害群 15. 試験の解説とまとめ 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。目に見えないものについても思いを馳せようと試みる姿勢が重要です。		
教科書・教材等	毎回授業では配布資料を使用する。必要に応じて参考文献も紹介する。		
授業の形式 教育機器の活用	講義 パソコン、プロジェクター、検査用具		
成績評価の方法	毎回授業後に実施する小レポート30% + 期末試験70%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	言語聴覚士の国家資格試験のための学習のために、そして資格取得後の臨床実践現場における臨床心理学的理解のために、少しでも役立てられるよう授業内容を工夫します。オフィスアワーは設けませんので、質問等は授業前後の時間をご利用下さい。		

2025 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	高次脳機能障害 I	担当教官名	山下明宏
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	高次脳機能障害、失行、失認、記憶障害		
授業の概要及び到達目標	<p>高次脳機能障害の定義および基本的知識について、失語症を除く失認、失行、記憶障害、前頭葉症状などの症状を習得する。</p> <p>* 実務経験: 実務経験: 2003年から2013年の期間内に病院で勤務し、主に失語症・高次脳機能障害・構音障害・嚥下障害に対するリハビリテーションに携わっていた。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高次脳機能障害総論(脳の見方、主症状と背景症状、脳梁離断症候群) 2. 高次脳機能障害総論(回復過程、リハの流れ、症状の見方、国際生活機能分類) 3. 視覚認知の障害、視空間認知の障害① 4. 視覚認知の障害、視空間認知の障害② 5. 特異的な視覚認知障害、聴覚認知の障害、触覚認知の障害 6. 身体意識・病態認知の障害、行為・動作の障害(失行・非失行性の障害) 7. 行為・動作の障害(失行・非失行性の障害)① 8. 行為・動作の障害(失行・非失行性の障害)② 9. 構成障害、記憶障害① 10. 記憶障害② 11. 記憶障害③(健忘症状がある症候群) 12. 認知症① 13. 認知症② 14. 前頭葉と高次脳機能障害(症状・評価・診断) 15. 脳外傷・進行性疾患に伴う高次脳機能障害 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	『高次脳機能障害学 第3版』 医学書院, 『失語症学 第3版』 医学書院,		
授業の形式 教育機器の活用	講義・演習 (パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から 履修に当たっての留意点	臨床場面につなげるための基礎知識となるため、予習・復習を行ってください。		